

神戸ゆかりの美術館 外部評価

I 決定事項

外部評価の数値を以下のとおりとする。

- 展示内容・収蔵保管：平均 4.1
- 研究・普及・啓発：平均 3.1
- 経営状況：平均 3.1
- 施設設備：平均 3.3

2 委員の主な発言内容

(1) 評価・所見

・六甲アイランドの集客拠点として一定の役割を果たしている（館長）

(2) 人的体制面、施設面の制約について

・神戸ゆかりの美術館は小磯記念美術館と比較すると、相対的に見劣りする面はあるが、人的制約^{※1}、施設的制約^{※2}を考えれば致し方ない。

※1 人的制約：学芸員が正規職員1人に限られる。

※2 施設的制約：ファンション美術館と共用施設であるため、作品の搬入・搬出が困難（開館前後・閉館後のみ作品移動が可能）や環境（温湿度管理が本来の美術館仕様ではない）など運用上の制約がある

(3) 企画方針・ラインナップ

・「はしもとみお」展では、観覧者が伸び、目標である 17,600 人に達した点は評価できる。ただし、はしもとみお展から次の特別展である他館コレクション（宮城県美術館）へ来館動機が繋がりにくく、ラインナップの一貫性・位置づけの難しさが課題である。

・神戸ゆかりの美術館での展覧会の企画については、以下のような問題点がある。

①展覧会ラインナップの一貫性・位置づけの難しさ

（予算・採算の問題から、商業的集客企画と本格的美術企画が混在せざるを得ない）

- ②サンリオ展など商業的集客企画実施時の採算性の確保
- ③神戸ファッション美術館との共用施設で、管理する局、運営主体がゆかりの美術館と異なっていることによる連携・調整の難しさ
- ④継続的に多様な企画を維持できるか不透明（人的・財政的制約）

(4) 普及・連携の提案

- ・大学カフェ等での絵本・絵画展示、昼休みイベントなど、若年層への認知度を拡大する取り組みを企画するとよいと思う。